



特別号

第10回

まつりどうじ

「祭童子あつまれ」

らくぶん

楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!

みんなが大好きな

お祭りのこと

君のお祭りの楽しさを

教えてください。

詩・作文・歌、君にあった

方法でかまわない。

一行でも、誤字・脱字、

ぜんぶひらがなでもOK。

じょうずじゃなくてもいい。

そう、「楽文」でいいんです。

お祭りは、みんなを楽しくする。

もっと、もっと楽しくなるために、

君の大好きなお祭りのことを

教えてください！



◎主催 NPO博多の風

◎特別協賛 NTT docomo

◎協力 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社
RKB毎日放送(株)、九州朝日放送(株)

◎選考委員 瀧田喜代三氏(博多祇園山笠振興会 会長)
岩松 城氏(毎日新聞社 西部本社 編集局長)
永守良孝氏(RKB毎日放送 代表取締役社長)
沢田幸二氏(KBC九州朝日放送 パーソナリティ)
大庭宗一 (NPO博多の風 理事長)

◎協賛 西部ガス(株)、西日本鉄道(株)

◎後援 福岡市、福岡市教育委員会、福岡商工会議所
(社)九州経済連合会、(株)岩田屋、九州電力(株)
九州旅客鉄道(株)、(株)九電工、コカ・コーラウエスト(株)
(株)西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行
[順不同]

第26号

平成22年10月発行



祭り童子あつまれ 楽文コンテスト 各賞受賞作品発表!!

博多祇園山笠振興会賞

- 「観音祭り」 周船寺小学校6年 藤嶋 綾絵
- 「走れ走れ山笠」 博多小学校6年 高松 勇士
- 「ステージの上のよこび」 香椎第三中学校1年 高島 歩実
- 「みんなが楽しめるお祭り」 香椎第三中学校1年 杉山真優子
- 「生きている「山笠」」 舞鶴中学校1年 日下部光洋

毎日新聞社賞

- 「キラキラ」 舞鶴中学校2年 宮地 桃子
- 「早起きは祭りの徳」 舞鶴中学校2年 山口明香里
- 「放生会の達人とその息子」 舞鶴中学校2年 堀 聖太
- 「祭り」 香椎第三中学校3年 山出 彩花
- 「祭りのエネルギー」 香椎第三中学校3年 板谷 晃良

NTTドコモ賞

- 「博多祇園山笠」 博多中学校1年 小関 佑弥
- 「城ノ原盆踊り」 西陵中学校1年 西原 雅貴
- 「絆」 香椎第三中学校3年 三浦 美香
- 「博多どんたく」の思い出 下山門中学校3年 松永 沙紀
- 「父は「蟬」なのです」 博多中学校3年 酒本 七生

RKB毎日放送賞

- 「人をこえる人」 千代小学校5年 大和 司
- 「子供山清道まわり」 博多小学校5年 原 夏仁
- 「わたしと山笠」 博多小学校5年 城戸 美穂
- 「二年目の稚児舞」 博多小学校6年 國益千緒吏
- 「子供山笠 ありがとう」 博多小学校6年 神代 新

NPO博多の風賞

- 「ながれかんじょう」 博多小学校1年 和田 昌也
- 「はじめてのどんたく、やまかさ」 博多小学校1年 大村 結子
- 「山笠」 博多小学校4年 馬場 鈴華
- 「大すきどんたく」 博多小学校4年 平井 優花
- 「山笠」 長丘小学校6年 二神 彰太

博多祇園山笠振興会賞

観音祭り

●周船寺小学校6年

藤嶋 綾絵

「私の住んでいる所では、毎年八月十七日に観音祭りがあります。年に一度、観音様を開放し、拝むことのできるお祭りです。しかし、同時に花火大会があり、今では、花火大会の方が有名です。花火は、池の上で上がるのですが、その池の前に私の家があります。なので毎年、花火がきれいに見えます。花火は一時の間ほどあります。最初は、ゆっくりとしたペースで打ち上がりますが、最後の十分間ぐらいは、赤や青、緑に黄色と、色とりどりの花がたくさん夜空に咲きます。今年は、ちようちよの形が新しくありました。去年の花火と比べるとのも一つの楽しみです。もう一つの楽しみは、夜店です。やきとりやかき氷、くじ引きに金魚すくいなどの種類があります。とても広いはんなりがあるので、端から端まで行くのは大変です。なので私は近くまで行って帰ります。しかも、毎年見物の人が増

えているように思います。その多くは、若い人で、あまりマナーがよくありません。みんなが帰った後、道路を見るとごみがたくさんおちています。近所の家では敷地内にごみを投げ込まれたりしているそうです。お祭りがにぎやかになるのは、とてもうれしいことですが、そういう事を見たり聞いたりすると、すごくいやな気持ちになります。私がほかの所のお祭りなどに行く時は、そこに住んでいる人のことも考えるように気を付けています。ここに来る人達も、気を付けて欲しいです。お祭りを通していろいろな事を経験したり、学んだりする事が出来ます。観音様への感謝の気持ちや、花火での感動、マナーの大切さがわかりました。

この観音祭りは、いろいろなことを学んだり楽しむことが出来るので、来年も多くの経験をしたいです。

走れ走れ山笠

●博多小学校6年

高松 勇士

7月1日から山笠が始まりました。そしてさつそく7月1日からお汐井とりで、はこぎきぐうからくしだ神社まで走りつかれていたら友達が心ばい

してくれて、とてもうれしかったです。7月2日3日4日からは、子ども山笠でした。子ども山笠1日目、表をかついだりして色々な人に会えました。子ども山笠2日目、友達と一緒に走って台上りをし、とても思い出に残りました。

そして子ども山笠3日目、くしだ入りで、去年のタイムはこせず残念だったけれど、自分はとても満足で、友だちも先生もみんな泣きながらよるこんでいたので、みんなもたぶん満足だったんだなと思つてとてもよるこびました。そして7月9日から、また、お汐井とりで、ぼくは、千代流だからはたをもつて、走っていたら同じ町内の人が「かわろうか」とか、「だいじょうぶ」という声をかけてくれました。少しうれしかったです。理由は、7月1日にその人とケンカをして、ひと言も、声を出してくれなかったのにきつそうな顔をしていたぼくにたいして、笑顔で、「かわろうか」と言ってくれて、うれしかったです。そして、流がきや追山ならしや集団山見せがあつて最終日になりました。15日朝早く起きて追い山が、始まりました。みんな色々な人と協力して、なんとか追い山が、スタートしました。みんな「かわろうか」や「きつかったらかわつていいよ」と

か、の声がいっぱいきこえてきていました。そして、追い山が終つてタイムをきくと2位でした。東流は、やつぱり1位でした。そして、山笠の思い出の物がいっぱいできて、すごく楽しくてすごくきつかったお祭りでした。

ステージの上のよるこび

●香椎第三中学校1年

高島 歩実

私は、お祭りが大好きです。その理由は、屋台が出たり、たくさんのお色んな出し物を見たりするからではありません。

なぜなら、私はステージの上のお祭りの多いからです。私は、「綾杉太鼓」という和太鼓のチームに入っています。香椎では有名な、香椎宮の「しようぶ祭り」や、「香椎宮祭り」などに、毎年出させていただいています。演奏の時も、たくさんのお客さんがきてくださって、たくさんのはくしゅをくれます。

ステージの上は、たくさんのお客さんが、私たちを見てるので、すごくきんちょうします。特に、私は「篠笛」という竹の笛をふいているので、すごく目立ちます。イントロが笛で始まる曲では、スポットライトがないのに、お

客さんの視線がライトのように私を見ています。「これ失敗したらどうしよう」と、すごくドキドキしてしまいます。でも、太鼓の音がなつたしゆんかん、小学生ぐらいの子も、若いカップルも、親子もおばあちゃん、おじいちゃんも、お客さんみんなが、「おおー」と、おどろきます。そして、それから、誰も目をはなさず、夢中で演奏をきいてくださいます。

お祭りにきて、屋台で何かを買ったり。それも楽しいですが、お年寄りの方、小さい子と交流する事があまりないと思います。

でも、私は和太鼓をやっているのも、小さい子もお年寄りの方も、世代をこえて、楽しむことができます。終わった後も、「おじようちやんいくつ？お上手ねえ。」と言われるたり、「お姉ちゃんが持つてるその笛ってなんていう笛？かっこいい！ふいてみたいー」と、たくさん声をかけてくれます。

演奏がうまくできたことでもらう、「拍手」や、「笑顔」や、「はげましの言葉」が一番の「元気の源」です。演奏をきいて、「やってみよう」という方もたくさんいます。すごくうれしいです。

「お祭り」は、世代関係な

く、楽しめます。

その「お祭り」に、毎年呼んでもらつて、さらにたくさん言葉や拍手や笑顔をいただいて、本当にうれしいです。「元気をもらった！」といつてももらえるなら、私はずっと「綾杉太鼓」として演奏をやり続けようと思います。

「お祭り」のおかげで、「綾杉太鼓」のおかげで、たくさんのお客さんが、うれしいです。

「綾杉太鼓」として、「お祭り」で演奏ができることを「誇り」に思っています。

みんなが楽しめるお祭り

●香椎第三中学校1年

杉山 真優子

わたしはお祭りが大好きです。今年も夏休みに二つのお祭りに参加しました。そのお祭りで感じたことが二つあります。

一つ目は、地域の人達との交流です。わたしが行った二つのお祭りは、どちらもわたしが住む地域ではありませんでした。だから、食べ物も売っている人や、イベントの主さいの人とはほとんど初対面の人でした。しかし、その人達は優しくしてくれたり、食べ物も少し多くついてくれたりしました。それは、とても初対面の人にする対応では

なく昔から知っている近所の人にするような対応で、とても楽しく参加することができました。

今ニュースでは、百才以上のお年よりが相ついで行方不明になっているというのをよく耳にします。なぜこのような事態になつてしまったかまだ分かりませんが、わたしはいろいろな人とかかわりが少ないことが原因の一つだと思います。お祭りなどで築く新しい関係が広がれば、ふだんなかなか話さない人とも新しい関係ができ、連らくを取り合いこのような最悪な事態を防ぐことができるのだと思います。なぜそう言えるかというと、わたしも今回行った祭りで、わたしの友達と知りあいになったからです。だから、一回でも地域のお祭りに行くとおくと、自分のことを知っている人が増えると思います。

二つ目に感じたことは、ごみがたくさんあつたことです。お祭りというものは、人が多く集まるところです。そのため、ごみ箱がいくつもあってもかかわらず、ポイ捨てをする人も残念ながら何人かはいるということになります。わたしが今回行ったお祭りにもそのような人がいました。近くにごみ箱があるのに地面に捨てたり、だれが捨てたか

はわからないけれどごみが地面に捨ててありました。しかも、ごみが地面にあるのもかかわらず、そのごみをふみつけている人もいました。

しかし、このように書いているわたしも、ふみつけはしなかったけれど拾おうとはしませんでした。汚いという気もちもありましたが、だれかが拾ってくれるだろう・・・という気もちで、落ちているごみを見てみぬふりをしてしまいました。だから、わたしはもちろんなみなさんも、落ちているごみは、汚いという気もちを捨てて拾ってお祭りを楽しい、おいしい、そしてきれいというイメージにしたなら、もつと世代をこえてたくさん人が来ると思っています。

このように、お祭りに行くときと気づくことや感じるものがたくさんあります。また、新しい関係を作る場でもありません。だから、わたしは来年も再来年そしておばあちゃんになっても、大人も子どもも楽しめるお祭りに行きたいと思っています。

生きている「山笠」

●舞鶴中学校1年

クサカベ
日下部 光洋

僕が一番好きな祭りは「山笠」です。そして僕は、大黒流で出ています。もちろん観

るよりも、「山笠」に出て走る方が好きです。

山笠に出ていて、楽しいと思うことがあります。それは、友達といっしょに走れて、面白いことと、山がせまってくる緊張感があることです。山笠に出ていて友達と走るのが面白いのはなぜだか自分でも分からないけれど、友達と公園でいっしょに走るような楽しみと何となく似ている気がします。山と鬼ごっこをしていくような感じで、それであるの緊張感がでてくるんだと思います。

この他にも「山笠」の好きな所が二つあります。

一つ目は、毎年山の人形が変わることです。いつも最初に「山笠」に出る時に今年はどうなる人形かと思いつくワクワクします。それに山の人形はどんなに見てもあきないし、まるで生きていくかのようにリアルで、はく力もあるので、山にも命があると思います。

二つ目は、「山笠」を観ていることで、とてもはく力があることです。人形は山が動いていない時でもリアルだけど、やっぱり山が動いている、走っている状態が一番活き活きしていると思います。

またそれをかっく人やおす人もその時は険しい顔で本気になるって、その時はとても活き活きしていると思います。

出ている方が楽しくて、好きだけれども、観ている人も楽しんで、山と友達や色々な人と自分で鬼ごっこをしているような感覚を味わえたり、毎年山の人形が変わって、今年は何かと思つてワクワクしたり、山も人も走っている時が少しこわいけれど、活き活きしている。こんなにたくさん好きな所があるから、毎年一回は必ず出ているし、たくさんある祭りの中でも一番「山笠」が好きです。また、毎年一回は必ず山笠に出て、自分は山をかついだり、おしたり、台上りもしないけれども、一生懸命声を出して、走って自分も他人から見ても活き活きした姿になりたいです。

毎日新聞社賞

キラキラ

●舞鶴中学校2年

ミヤチ
宮地 桃子

毎年、少し暑くなってくるころ、博多祇園山笠が行われる。車は通行できなくなる。人もたくさん見に来るのでバ

スや電車の中いろんなところがこんでいる。なぜ人々はそんな中、山笠を見に来るのだろうか。

「山笠」は私の中では全く存在感が無い。というか忘れていた。だが、山笠が行われる日が近づくとき心ワクワクしてくる。テレビや新聞でたくさん報道されているからだと思うが、なぜか、私の中で存在が増しているのだ。

私の同級生で小学校のときから山笠に参加している子がいた。練習があつて学校に遅れてくることもしばしばあつた。授業も、うとうとして眠そうときもあつた。周りの子はその子に、「楽しいの?」「きつくないの?」という質問をしていたが、彼は笑つて答えたのだ。「楽しいよ。元気になるよ。」

え、アンタ眠くなつとるやんけ・・・と私は思ったが、なぜ彼がそう答えたのか今年になって分かった。

山笠当日、私は用事があり、一人で天神に出かけていた。しかし、山笠のせいでなかなか目的地にたどりつけずにいた。すごく困っていると、人

ごみの中のちよつとしたすきまから、山笠が見えた。私の目が輝いた。いきいきとしたかけ声。力強い足音。りりしい男の人たちの顔。小さな体で一生懸命声を出す子どもたち。

同じ場所にいたのに彼らは加工された写真のようにキラキラしていた。

山笠は、博多の名物。テレビがそうとりあげていた。最初は電線にひっかかったり男の人がふんどし一丁だとゆうことに市民から苦情があつたそう。その後、いろいろな工夫がされ今にいたつている。なぜ人々が、バスや電車に乗りにくい中、山笠を見にくるのか。それは、博多の伝統行事の「すごさ」と「熱さ」を目にやきつけるためだ。山笠をして元気になれるのは、きつと温かい地域の人々の応援に答えることができるからだと思う。そして私は、山笠の行事を好きになった。

夏が始まる少し前、天神の周りがにぎやかになるとき、熱いアツイ山笠が始まる季節だ。男女関係なく、子どもから大人まで楽しめて、元気になる行事だ。さあ、めんどくさいなんて言わず一度山笠を見に行つてほしい。そこにはキラキラがやく男たちと、キラキラした目でみる私たちがいるだろう。

早起きは祭りの徳

●舞鶴中学校2年

ヤマグチ
山口 明香里
アカリ

「こんな朝早くからどこ行くのと？」小学校五年生の夏のある日に私は朝早く起こされ完全に目が覚めてないまま母に問いかけた。

母は「今日は山笠だから見に行くんだよ。」と答えた。私はお祭りが大好きなのだが、早く起きるのはとても苦手でこのときは全く行きたいという気持ちになかった。しかし、家族全員が行くと言っていたので私もしぶしぶ行くことにした。

家を出て、博多祇園山笠が行われる場所まで行く途中で私は驚く光景を見た。それは多くの人がぞろぞろと私たちと同じ方向に向かっている光景だった。「こんなに朝早くからたくさんの方が集まる山笠って生で見るとそんなにおもしろいのか。」とこの光景を見て私は博多祇園山笠を実際に見るのが楽しみになっていた。

しばらく歩いた後、私たちは博多祇園山笠が行われる場所へとたどりついた。

それから何分かして力強い大勢の男の人の掛け声がかかと思うと、遠くから博多祇園山笠の山が続々と現れた。迫力のある一時の出来事に私

は心を奪われた。きれいな山、それをかつぐ大勢の男の人のチームワーク。全て含めて一つの芸術作品のように思えた。そして、博多祇園山笠を朝早いのにわざわざ見に来る人達の気持ちもわかったような気がした。少しの時間だったが、朝早くに起きて貴重な体験が出来てまた、博多の地に関わる祭りに触れることが出来て良かった、と私は心の底から思えた。

思えば、博多祇園山笠に行く前の年に私は小学校で博多祇園山笠についての学習をしていた。それでも教科書を読んだり、ノートを書いたりしてもさすがに博多祇園山笠ならではの迫力だとか実際の山の美しさは分からなかったのである。

私がそれらのことから一番学んだのは体験することが何よりも大切であるということだ。そして博多祇園山笠だけのことで言うと、屋台が並んでいて花火を見るという夏の祭りも楽しいが、迫力があり、博多の良さが見えているだけでよく分かるような珍しい祭りも面白いと言う新たな発見も出来た。

それから私は博多祇園山笠に興味を持ち、テレビで見たりするようになった。毎年変わるらない迫力と大きく変わる

山を博多の町に毎年届けてくれる博多祇園山笠は本当に素晴らしいと思う。これからも博多特有の祭りに参加して博多の町をもっと好きになっていきたいらいいと思う。

放生会の達人とその息子

●舞鶴中学校2年

ホリ
堀 聖太
シヨウタ

僕の放生会デビューは幼稚園に入園する前二歳ぐらいだったと両親から聞いていたがもちろん記憶にない。それから、毎年、父の影響もあって放生会には行っていたがここ三年間ぐらいは小学校から始めた野球が忙しくて行っていない。

この作文を書いている途中で父が僕の部屋に入ってきて来て作文の内容を知ると僕が聞いてもないのに父とおじいちゃんの思い出を話し始めた。父は、自称「博多の祭の達人」で、放生会、博多祇園山笠をはじめ、博多の祭で知らないことはないと言っている。父の放生会の思い出は、毎年百円札を一枚にぎりしめて夜中の十二時過ぎまで遊びまくり、家に帰るとおぼあちやんから死ぬほどげんこつ嵐をもらい翌日にはたんこぶの山がたくさんできてい

たそうだ。ちなみに父の得意種目は金魚すくい一枚のポイで三十匹以上はすくい取っていたため店のおっちゃんからは特に要注意人物に指定されたそうだ。

父の子供の頃の話しが終わったと思うと次に父はおじいちゃんの話しを始めた。おじいちゃんは父に輪をかけた「祭の達人」だったそうで、父が幼稚園(年中)の時、おじいちゃんはいつもの様に父を連れて放生会に行ったのだが酒をたくさん飲み、得意の金魚すくいとおじいちゃんから目が飛び出るくらいに怒られたそうだった。おじいちゃんはおじいちゃんに十九歳の時になくなったそうでももちろん僕は、おじいちゃんのこととは一切知らないのだがこのエピソードを聞くとおじいちゃんがかような人だったのかということが少し想像できる。

本来、放生会とは捕獲した魚や鳥獣を野に放し、殺生を戒める宗教儀式であるはずだ。しかし、出店には金魚すくい、鰻つり、ザリガニつりなどどう考えても生き物の殺生を戒めるものとは考えられない。この考えを父に話してみると父は、「お前は、放生会に限らず祭り本来の意味が解って

いない。祭りとは、自分自身が参加し楽しむものでそれ以上でもそれ以下でもない。例えば、金魚すくいにしてもへたくそでポイを使うと金魚に傷をつけてしまい金魚も痛い思いをするが、お父さんみたいな達人がやると金魚には一切傷もつけないし金魚自身も喜んでいるはずだ。」そう言うって父は僕の部屋を出て行った。他人には納得できない説明だと思うが、僕は父らしい言葉だと思った。

将来、僕も結婚し子供ができたなら、必ず子供と一緒に放生会に行ってみよう。その時はまず放生会の意味をきちんと説明してそれから思う存分何も考えず遊びまくりたいのだ。しかし、「子供と一緒に来たこと。」は決して忘れてはいけない。僕もおもしろいおじいちゃんやD.N.Aを受け継いでいるからだ。

祭り

●香椎第三中学校3年

ヤマデ
山出
アヤカ
彩花

私は祭りが大好きです。小さい頃からよく家族で祭りに行っていました。小学校の頃は、友達とワイワイしながら行っていました。

私は祭りの、あの独特な雰囲気が好きです。みんなを笑顔にさせてくれる、独特なおいしそうな臭いも大好きです。祭りは、来た人だけでなく、物を売って商売してる人でもずっと笑顔です。小学校六年生になっても、一度だけでも家族と一緒に行くことは家族の中の、お決まり事みたいな感じでした。私の家族は、三人家族で、母、兄、私、の三人でした。いつも通りに行くと、お母さんから千円もらい、ゲームやくじびきなどを、楽しんでいました。お母さんは遠くで座って、そんな私たちを笑顔で見っていました。お金もなくなり、何もすることがないので、母のところに戻りました。母は、やきとりとお好み焼きを私たちのために買ってきてくれました。三人で食べるのはとても楽しくて、ずーっとそこで話してました。

お母さんは、女手一つで育ててくれたので、さびしいと思

いをさせないように、二人分の愛情を注いでくれました。なので私は一度も、

“お父さんがほしい”

なんて口にしたこともないし、思ったこともありません。お母さんは、二人のための学費や洋服代、食費のために朝から晩まで働いていました。それでも、どんなにキツくても私たちのことも相手してくれて、お母さんの手を抜いたご飯なんて一度も見ることがありません、私たち兄弟も、お母さんの家での負担を軽くさせるために、二人で家事の分担をしました。

私が祭りが大好きな理由は、もう一つあります。お母さんと、祭りに来た時は、とても安心したような、落ちついたような、本当に楽しんでいるような笑顔になるからです。私は、お母さんの笑顔が大好きです。祭りは、私のお母さんに本当の笑顔をあたえてくれるので大好きです。これからも、家族みんなで祭りに行つて、たくさん笑顔を見たいと思います。

祭りのエネルギー

●香椎第三中学校3年

イタヤ
板谷
アキオ
晃良

夏休みといったらお祭りだと思う。暑くて外にも出たく

なくなる夏でも、お祭りのときは早く外に出たくてたまらなくなる。そんなお祭りが大好きだ。お祭りのいいところは、とてもたくさんある。その中でもすごくいいと思うものは三つある。

一つ目は、人を元気にすることができるところだ。だからして僕を元気にしてくれただけのお祭りのおかげだ。二つ目は、たくさんの人と仲良くなれるところだ。知らない人でもお祭りで盛り上がっているうちに仲良くなれたことがある。これもお祭りのおかげだ。

三つ目は、みんなを楽しませてくれるところだ。お祭りにこれがないと盛り上がりなくなる。だから、これが一番お祭りに欠かせないものだと思う。このように考えてみて初めてお祭りのすごさを知ることができた。

そんな楽しいお祭りができているのは地域の人たちのおかげだと思う。お祭りの準備から片づけまですべて地域の人が協力してやっている。それに対して僕たちは、お祭りが終わったらすぐに帰っている。そんなことでは地域の人たちに悪いと思い、お祭りの手伝いをすることにした。

お祭りがある会場に朝の九時に集合した。周りは知らない人ばかりだった。まだ準備

をする人しかいない会場を見るのは初めてだった。打ち合わせの人たちの声しかなかった。会場はお祭りがあるところとは思えないくらいだった。準備が終わるころにはたくさんの人が集まっていた。一時間という長い準備時間があつという間に終わり、お祭りが始まった。僕はフランクフルトの販売をすることになった。早速友達がいかに来てくれた。

それが初めて売れた瞬間だった。そんな売れた瞬間はとてもうれしかった。それからたくさんのお客さんが買ってきてくれた。なぜか販売しているだけでもすごく楽しかった。そんなことを考えている間にもう片付けの時間になっていた。そして、今日のことを振り返りながら片づけを終えた。最後に今日お世話になった地域の方にお礼を言った。地域の方は「こちらこそありがとう。」

と、頭を下げた。家に帰って今日のことをいろいろと思い出していた。するとあることに気がついた。お祭りが終わって片づけをしているとき、遊びに来た人たちは帰っていったのに少しもいやな気持ちにならなかった。僕は片づけを手伝ってもらえないのは困ることだと思っていた。しかし、そうではない気がした。準備をするときは、みんながお祭りをきつと楽し

んでくれるだろうという「期待」からエネルギーをもらってがんばれる。片づけをするときは、みんなが楽しんでくれたという「うれしさ」からエネルギーをもらってがんばれる。こんな気持ちをもっとたくさんの人に知ってもらいたい。

NTTドコモ賞

博多祇園山笠

●博多中学校1年

オセキ
小関
ユウヤ
佑弥

七月の博多は毎年熱気に包まれます。そう博多祇園山笠です。

六月、各流で山笠の準備が始まります。ぼくは初めて山笠の集まりや、勉強会に参加しました。勉強会では、水当番や交通、台上がりなどのやり方と注意を受けました。今年には当番町で大人もみんな気が合が入っていました。

七月一日、当番町お汐井取りです。子供も大きな声を出してお汐を取って帰りました。

七月十日早朝、朝山です。去年まで子供で起きるのが遅くても良かったけど、若者入りしたので、大人と同じ時間に起きないといけなくてずつとねむかったです。それでも、水当番はしつかりやりました。大人の方からアドバイスをもらったので勉強になりました。

七月十二日、追い山ならしがありました。この日は飲める水を運ぶ水担い（みずにない）という役割を受けました。走りすぎると水がこぼれるし、遅く歩くと山笠に追いつかれるので、スピードの加減が難しかったです。

七月十三日、集団山見せ。

この日も水担いを担当しました。天神の方まで行って帰ってきました。夜、これまでの疲れが出たのか、宿題がぜんぜん終わりませんでした。

七月十四日、男達は明日に向けていつそう気合いが入っていました。スピードもいつもよりもつと速くあつという間に流鼻ぎが終わりました。

七月十五日、ついにこの日がやってきました。ぼくは山どめまで台上がりをしました。大きな声でせいっぱいしました。台上がりが終わってからは櫛田入りの時間を待つだけです。大雨の中ついに櫛田入りが始まりました。すごいスピードで清道を回り櫛田社をかけぬけました。それか

ら廻り止めまで行き、やっと今年の山笠は終わりました。詰所にもどってからはみんな「よか山やった。」と、かんなきわまって泣いていました。でもぼくも泣くぐらいいよか山やったなあと思いました。

今年初めて若手に入って貴重な体験をたくさんさせていただきました。ほんとうに今年の山はよか山でした。

城ノ原盆踊り

●西陵中学校1年

ニシハラ マサタカ
西原 雅貴

サアサア出なされ、踊り子さんよ」の口説きで始まる。

盆踊り

提灯で飾った盆台の上には太鼓、口説きを歌う方、その下には、笛や三味線、その回りにはたくさん踊り子さん、またその回りには、この祭りを楽しみにしている地域の方がたくさん集まり盛り上がる。僕は、この祭りで太鼓を小学校一年生から練習し二年生から盆台に上がり、打っています。

僕の中では、この太鼓が一年の中での一大イベントになっている位です。

毎年お盆の八月十四、十五日は、盆踊り。踊りの後十五日は、盆綱が行われていたが、

何年か前から若手の協力者が足りないため地域の年長者は保存会として行っていたが、去年から、盆綱がなくなってしまうた。

昔は青年団が中心になり、わらをもらう手配から行っていました。わらを、三つ編にし、大きさは20〜30センチ長さは120メートルの綱を作っていました。その時は、炊き出しをしたり大がかりな地域の皆さんの協力がなければできない地域での取り組みでした。

そして十五日は、ねじりはちまき、締め込み姿、腹にはさらしを巻き、地下たび片手には提灯を持って、まず丸山観音に皆の安全を祈願し参拝をし、いよいよ盆押し。

青年が二人で肩を組み輪を大きくしていき、「オイサ、オイサ」の掛け声も勇ましく押し合いながら男同士のおづから合いという感じで路地を練り歩く。あちらこちらから「勢い水」が飛びとても活気があり、わくわく、ドキドキ、勇そう祭りと感じる熱くなる。

綱引き

上の方が極楽、下のほうが地獄として、引き合い、地獄に落ちた先祖の霊を引き上げ極楽へと導く儀式である。この綱引きがなくなってしまうことは、先祖の霊をなぐさ

める事ができなくなってしまった。これは、失くしてはならないと思います。僕がもう少し成長したら、青年団を作り、昔みたいに、この祭りの本当の意味を、僕の子供達にも伝えて行かなければならぬと思います。

絆

●香椎第三中学校3年

ミツウラ ミカ
三浦 美香

八月七日、この日も散々だった塾からいつも通るなじみのある道を使って帰っていると、あちらこちらから浴衣姿の人が近くの神社に向かっていて、そこからは、子供から大人そしてお年寄りの人のたくさん笑いの声が聞こえてきました。「今日は夏祭りだ」

私は、すぐ夏祭りのあつている神社に向かいました。始まって間もないというのに、浴衣やじんべいを着た人が、焼そば、かき氷などの屋台に大勢集まっています。特に私の中学校の吹奏楽部による演奏や、祭り恒例のラムネの早飲み競争など行われるステージが一番人がいて大人気でした。その中で私は、ダンスを楽しみにしていました。それは友達と踊るからです。いよいよ始まって夢中になって見ている

と、私の隣に、スーツ姿でいかにも仕事帰りの女の人がいきなりきて「はーはー」息を切らしていました。誰だろ？と思つて顔をのぞくとそれは、今踊っている友達のお母さんでした。「今踊っていますよ。」と私が言うと、「良かった間に合った。」とほっとした様子で言い、子供の姿を笑顔で見っていました。そんなお母さんを見ていると私も間に合つて良かったと思いました。その後屋台を見たり、友達としゃべったりして過ごしていると、踊っていた友達とお母さんが2人で笑いながら幸せそうに歩いていて、また、私も幸せな気持ちになりました。

この祭りを通して私は、祭りという行事に新しい発見ができました。それは、「親子の絆」です。親は、自分の子供のために仕事をしているのに更に自分の子供のためにステージを見に来て、子は親のために踊り、このようにお互いを思い合う事が「絆」と考えたからです。私も、親になつたら「親子の絆」がきずけるといいなと思いました。

「博多どんたく」の思い出

●下山門中学校3年

松永 マツナガ 沙紀 サキ

私は去年、友達と一緒に「博多どんたく」に参加した。私の祖母が日舞の先生をして

いるので、祖母に踊りを教えてもらい、私を含めた三人で参加した。一緒に参加した二人は小学校からの親友で、何でも相談できる大事な友達だ。そして、どんたくに向けての練習が始まった。本番まで5回ほどしか練習ができない、ギリギリのスケジュールだ。他の祖母のお弟子さんたちは、さすがに慣れているのかあつという間に踊れるようになる。だが初心者私達はなかなか踊りを覚えることができなかった。そこで私達は顔をあわせる度に振りの確認をし、踊る曲も録音して覚えることにした。そしてその努力が報われたのか、なんとか本番に間に合わせる事ができた。

そしてついに本番。市内の何か所かの舞台をまわる事になっていった。最初の舞台は姪浜駅の特設ステージ。見知った顔もある場所に到着した時、私の緊張はピークだった。「人、人、人・・・」手の平に人の文字を三回書いて飲み込むと、緊張しなくなるというおまじないをしてみた。

が、心臓は更に大きく脈打つばかり。だけど私の目に二人の親友の姿が映った。優しいけど結構頑固で、いつも私を助けてくれる、この二人と一緒になら大丈夫だな、と心から思った。

そして私達の出番がきた。私の緊張は、もうどこかへ吹き飛んでいた。スタンバイの時の二人とのやり取りとか、踊っている時にお客さんと目が合ったとか、小さなことともとても楽しく感じた。「ああ、お祭りっていいな」と再確認したし、友情も再確認した瞬間だった。

父は「蟬」なのです

●博多中学校3年

酒本 サカモト 七生 ナナオ

父のテンションは、七月一日から七月十五日の間、マックスだ。

いつもはゴロゴロして死んだ魚のような目で世の中を見ている父だが、この期間つまり山笠の間だけは「漢（おとこ）」になる。

いつもは一番遅くまで布団の中、起きれば家族に欠伸まじりの気のない朝の挨拶をして、御飯を食べて、また布団の中、といった感じなのだが、山笠期間中は違う。一番早く起きて山の詰め所に向かい、

夜もかなり遅くまで山の仕事をしして帰ってくる。そして、いくら疲れていても、また朝一番に出かけて行く。

私は小学校五年生の時から、ごりよんさんとして働いている。それは、やりがいがある。楽しい反面、悲しくもある。

詰め所から出発していく小さい子ども達や大人達の姿を見れば、「私も男の子に生まれていればなあ」というやるせない気持ちになってしまう。父の頭につけている赤白の手拭、白と黄色の袴、それは「前さばき」というとても

栄誉ある証拠品。私も男の子だったら絶対にほしいと思っている。父はもともと、博多区には住んでいたものの、中心地とは遠い所で生まれ、山笠に出た事は一度もなかった。けれど、母と結婚してからは、母の両親や兄弟、親戚の人が出ているため、でるようになってきた。それから、父は山笠にドップリはまってしまったのだ。

父は真面目な性格で、人に言われたことは熱心に取り組み、責任を持つてする人だ。だから山の人はすぐに仲良くなり、昇進も早かった。私が幼い時もうすでに前さばきの地位についていた。

本人は「外面が良い」と簡単な言葉で片付けているものの私から見れば二重人格では

ないかと疑うほどだ。

ある時、母にその事について話した事がある。すると母は、

「あれは蟬よ、蟬、山笠以外の時は生きていけないの。父さんだけじゃなくて、皆そうよ。」と言っていた。意味が分かるよう分かった。第一、自分の夫を蟬呼ばわりする母はいかほどの者なのかと・・・。

七月十五日、山が終った。帰ってきた父は、いつもは猫背の背中をピシヤツとたてて、「ありがとうございました。」と家族に挨拶した。そして、「疲れた」と言って、ぐっすり眠っていた。

それから、目を覚ました父に、「おはよう」と言うと、気のない返事をされた。それは父だけではなく、おじさんやおじいちゃん、皆だった。蟬はもう眠りについてしまったようだ。来年のため、蟬は今日もまた眠っている。

RKB毎日放送賞

人をこえる人

●千代小学校5年

大和 ヤマト 司 ツカサ

山笠は、ぼくの知っている中で一番の祭だ。

とくに、この話を聞いてからは、すつごくすきになった。平成十四年、ぼくのお父さんが、隊長だったときは、追い山ならし、くし田入りは一位、4キロコース一位。

追い山、くし田入りは一位、全コース一位。

そして、みんなたちのリーダーとして、みんなが楽しめるようにとスピードをけつこうおとしたでしょ。そうすると3才ぐらいの子も走れるよ。お父さんが隊長の時そんなことができなかったなあ。と言っていました。

こんなぼくのゆめは隊長になつてみんなをたのしませることです。

子供山清道まわり

●博多小学校5年

原

夏仁

ついに明日子ども山清道まわりだ。自分が山をかつぎ清道をまわるなんて夢にも思わなかった。家族から「がんばれよ」と言われたからよけいさんちようした。そしてその日の夜いろいろなことが頭をよぎった。「失速したらどうしよう。」「いいタイムがだせなかつたらどうしよう。」「だがもうやるしかないのだ。その日はまよわずねた。」

よく日、清道本番一回目でリズムがくずれいいタイムがだせなかつた。一しゅん頭の中が真っ白になった。だがまだ次があるというを思いだしいいタイムがでるようにと心の中で願った。するといいタイムがでたのでみんなと喜びあった。そして三回目あいているところがあつたので一生けんめいに入った。そして三回目二十五秒という最高のタイムがだせたからなみだがでるくらい自分は感動した。

その夜お父さんがにやにやしながらぼくの顔をみるからなにかついているのと思いいてみるとなんでもないというから何かあつたのかと思つた。そして夕食ぼくは感動した。サラダにかけてあるマヨ

ネーズに「がんばったね。」とかいてあつたからぼくはおもわず笑い泣きをした。よく一日目をふり返つてみるとみんな三回目ほど顔がきりつとしていなかつた。一番大切なのは、山は一人でかついでいるんじゃない。台上りや鼻どり表そして見おくりや、後おし、おうえんしているこの人たちの心が一つにならないと山は動かない。そしてこの人たちが応援してくれたことで山をかこうという気持ちがり山をかいてる人を元気にしたり、勇気をあたえたりしてくれた。この人たちにたつた一言だけ伝えたい。

「みんなありがとう。」

わたしと山笠

●博多小学校5年

城戸 美穂

七月の七日間、わたしは、大好きな山笠に出ました。

「オイサツ、オイサツ。」と大きな声を出しながら博多の町を走りました。

山笠には、お父さんと妹とわたしの三人で出ています。お姉ちゃんとお母さんは、ごりよんさんとして出ています。でも、お父さんとはなかなか会えません。理由は、大人の人には仕事があるからです。子ども係、町総代、取りし

まり、えいせい、赤手のごいと一般参加です。わたしのお父さんは、町総代をしています。

お父さんに会えないのは残念ですが、決してさみしくはありません。友だちや子ども係の人がいっしょに走つてはげましてくれたり、元気づけてくれるからです。でもいっしょに走れないお父さんは、「そんな大変なのかな。」

そんなことをしているのか、わたしには全く分かりません。そこで、お父さんにどんな役わりなのかどのように大変なのか聞いてみることにしました。するとこういうふうに教えてくれました。

「町内の代表で、すごく大変な役わりだよ。」

お父さんはすごいなと思いました。山笠で走っている時のお父さんの姿や顔はみえないけれど、きつと走っている時は真剣でかつこいいだろうなと思います。

わたし達が山笠から帰つてくると直らいというのがあります。直らいでは、大人の女の子の人たちが作ってくれた手料理がたくさん並びます。ジュースやお茶、いろいろな飲みものを飲んだり食べたりしゃべったりしてとても楽しいです。わたしは、こんな山笠が大好きです。わたしは来年六年生までしか山笠に出ること

が出来ません。けれど最後の一年は、思いっきり楽しんで終りたいと思います。お父さんと走れなくなつたら、ごりよんさんとしてお母さんや自分の町内の人達といっしょに、直らいに出す料理をたくさん作つて山笠で走つてつかれたお父さんやみんなが笑顔いっぱい食べてくれるような料理をつくりたいです。それまでお父さんといっしょに一生けん命、走ります。

一年目の稚児舞

●博多小学校6年

國益 千緒吏

私は、5年と6年の春稚児舞をしました。稚児舞とは、西流と東流が2年交代でする舞の事です。舞姫といつて3年生と6年生の女の子が舞を踊つて囃子方がうしろで小づつみや笛、たいこ、大づつみやなどをします。一年目の時はきんちようしたけど今年は2年目だったのでとても楽しくできました。ふつうは、舞姫一人と囃子方4人でやります。がくしだ神社や警固神社では舞姫5人囃子方16人でやります。5人の時はまわりの人いうごきをあわせないとけないのでとてもきんちようしました。

いろんな所で舞っていると地面がコンクリートや石、点

字ブロックの上などいろいろな場所でおどりました。でも練習どおりにきちんとおどる事ができました。

そして去年はのれなかつた引台にもなることができました。くしだ神社のカレンダーにのつたり、テレビや新聞に出たりしました。

稚児舞2年目の今年は、3月から練習が始まりました。

去年やつたのでやりはじめたら、だんだん思い出してきました。でも今年、緩急をつけて去年とはちがう稚児舞をしないといけないので少しむずかしくなりました。だんだん本番が近づいて見にくる人もふえ合同練習も始まつてとてもきんちようしました。そして最初の本番は博多小のどんたく集会でした。全校生徒と先生方が見えています。「でだしはまちがえないかな?」「みんなとうごきがそろつていけるかな?」とか思いながら舞が始まりました。ドキドキしながらおどつているとあつというまにおわりました。大勢の人からはくしゅをもらいとってもうれしかったです。そして5月2と4日あつという間におわりました。

そしてこの稚児舞で3つの事を学びました。1つ目は、いろいろな人からささえられる練習を見守つてくださる地域

の方。舞を教えてください先生。
衣しよをきせてくれるおか
あさん、などいろいろな方
ささえがあります。

2つ目は、きつてもつか
れてもがまんする力。

せいざがきつても、あつ
なくても、それは自分だけじゃ
ない。という事。

3つ目は、どりよくはみの
る。自分ががんばった分だけ
いい舞ができる。その事をこ
れからもいかしていきたいと
おもいます。

子供山笠 ありがとう

●博多小学校6年

クマシロ
神代新

「一、二のヤー。」

ようやく子供山笠が始まった。

「オイサツ。オイサツ。」

かっきのあふれる博多の町が
もどつてきた。しめこみをし
た、子供や大人が山笠と同時
に走り出した。水がドンドン
かけられていく。

「バシヤー。ドシヤー。」

水をかかりながらも、子供山
笠は、走っていく。こうして、
初日は終わった。

「二日目も、一生懸命がんば
ろう。」

と心に決めた。今日も、

「オイサツ。オイサツ。」

といって、山笠は走る。いよ
いよ櫛田入りだ。櫛田神社に

ついた。

「あー。成功するかいな。い
や、成功させよう。」

心の中でちかかった。僕の心臓
は、バクバク、ドキドキいっ
ている。

「二分前。」

一回目がまじかにせまってき
た。

「気合入れていくぞー。」

「オー。」

すごい気合いだ。

「一、二のヤー。」

始まったとともに、

「オイサツ。オイサツ。」

すごい声が鳴りひびく。だが、
山笠は、止まった。

「二の、ヤー。」

何回やつても、山笠は動かな
かった。

「記録は何分かいな。」

と思った。

「記録は発表できません。は
ずかしすぎます。」

と言われた。それもそうだ。

ぜんぜん動かなくて、たぶん
二分は、かかっていた。

「気合入れ直して、いくぞ
ー。」

といった。

「うわあー。次は、おれやん
絶対止めんで、あきらめんど
こう。」

ぼくは、心の中にちかかった。

「三分前。」

かき繩をぼうに巻きつけた。
そしてねじってとれないよう
にした。

「一、二のヤー。」

はじまった。

「オイサツ。オイサツ。」

どんだん走っていく。終わっ
た。そしてタイムが発表される。

「結果は、四十二秒。」

いっきに客席がわきあがった。
そしてついに三日目に入った。

「代表の言葉、だいじようぶ
かいな。」

と思っていた。最終日でみん
な気合が入っていた。

「今日は、櫛田入りタイム、
いいのが出てほしいな。」

と思いつつ、山笠は始まった。

「一、二のヤー。」

いつもより、応援が多かった。
いつもは、けっこう山が止ま
ったけど、今日は、止まりそ
うになつても、止まらなかつ
た。櫛田神社についた。

「気持を高めよう。」

と思つた。そして、一回目も
二回目も終わつてやつと三回
目になった。みんなが、緊張
している中で始まった。

「一、二のヤー。」

ものすごい速かった。タイム
が発表された。

「いまのタイム。二十五秒。」

みんないっきに、はしゃいだ。
その中には、泣いている人も
いた。ぼくは、すごく嬉しか
つた。そして先生は、

「よくがんばった。でも今か
らもちやんとがんばろう。」

といった。そして学校の前ま
で来た。みんな山笠をかきた

い気持ちでいっぱいだった。

「一、二のヤー。」

勢いよく学校に入った。曲が
るとき、もう止まるかと思っ
たけど、止まらなかつた。

そして、閉会式になった。
先生が、

「お礼の言葉。」

といった。ぼくの出番だ。

「この三日間ありがとうござ
いました。ぼくたちの力だけ
では、この山笠は、動きませ
んでした。PTAやごりよん
さん、河原さんなどが、支え
てくれたので、動きました。
この子供山笠で、学んだこと
をこれからの生活にいかして
いきたいです。」

もうくいはい、ありません。
子供山笠に言いたいです。

「子供山笠 ありがとう。」

NPO博多の風賞

ながれかんじよう

●博多小学校1年

和田 昌也
ワダ マサヤ

ぼくは、ながれかんじよう
というまつりがだいすきです。
ずっとまえからたのしみにし
ていました。ゆうがたになつ
たら、おにいちゃんをつつぱ
しつてきました。とうもろ
こしをたべながら、おにいち
やんたちがしているしやてき
をみていました。ぼくもやつ
てみたろうまくあたらなくて、
ざんねんでした。

とちゆうでおかあさんたち
もきました。それでかきごお
りとわたがしをたべました。
さいごにきんぎょすくいをし
ました。

うまくすくえませんでした。
でもけんたろうおにいちゃん
とたけるおにいちゃんがい
つぱいとつてくれました。い
えにもつてかえてすいそう
にいれました。スイスイおよ
いでいてうれいす。

はじめてのどんたく、 やまかさ

●博多小学校1年

オオムラ 大村 結子 ヨウコ

わたしは、はかた小学校の一年生。こしはじめて、どんたくと山かさにさんかした。小学校のおともだちは、赤やんのときからさんかしている子もおおい。けれど、わたしは、はじめてさんかした。

わたしのパパとママは、ふくおかで生まれそだったけれど、はかたちくではないので、どんたくも山かさもさんかしたことがない。でも、パパとママは、

「せつかく、ふくおかに生まれただから、ぜんこくてきにゆう名な、どんたくや山かさにさんかさせたい。」と、はかた小学校の校くにひっこしてきた。

どんたくも山かさも、はかた小学校からさんかしたので、おともだちも先生もいっしょで、わたしは、とてもたのしかった。パパとママは、

「どんたくも山かさも、ずいぶんまえからじゅんびしてたいへんなんだね。でんとうをまもり、うけついでいくつて、たいへんなことだね。子どもたちも先生もいきの人たちも、すごいね。」

わたしには、よくわからない

いけれど、しゃもじをもっておどるのも、いわいうたをうたうのも、手一本をするのもとてもたのしい。どんたくと山かさが、いつまでもつづけばいいなあとおもう。

山笠

●博多小学校4年

ババ 馬場 鈴華 レイカ

わたしは、学校行事である子供山笠に今年も参加していません。毎年参加しているのですが、今年も参加しなかったのが、今年から四年生以上の女の子は参加出来なくなつたからです。

その後にある博多祇園山笠には全部参加しました。

おしおいとりは、恵比寿橋から筥崎宮まで一番山から七番山まできれいに列になり

「おつしよい」とかけ声をかけながら走ります。今度は筥崎宮から恵比寿橋まで戻り、わたしが出ている町内では子供はこまででおしおいとりは終わりです。その後大人は恵比寿橋からくし田神社まで行き、戻って来たからおしおいとりが終わりです。

走るきよりも時間もすごく長いです。

他には、流れがき、朝山、追い山ならし、集団山見せ、最終日が追い山です。

追い山は、八つの山がくし田神社の清道入りのタイムをきそい合っています。清道入りで一番山だけが祝いめでたを歌う事が出来ます。一番の見どころは、追い山ならし、追い山でしか見る事が出来ない八番山笠(かざり山)が清道入りする事です。

わたしは、女の子なのでつとは山笠に参加する事は出来ません。お祭りの中でも一番大好きな山笠なので、この時期になると男子がうらやましく思います。

大すきどんたく

●博多小学校4年

ヒライ 平井 優花 ヨウカ

「いよいよスタート」私の心の中は、「きんちよう」と「どきどき」の気もちでいっぱいだった。

5月3日、当日が、いよいよきた。私は前の日もきんちようしすぎてあまりねむれなかつたほどどきどきしていた。まずさいしよに学校にあつま

りそれから、「がんばろう。」といいあい、それからコースべつにわかれていく。私は、少しとおくはなれたところにいくコースだった。そして、

車のなかでもきんちようして、頭の中で、「ちゃんとまちはえずにおどれるかな。」とか、

「もし、しつぱいしてほかの人にめいわくをかけたらしなかな。」などやっぱり、じしんがありませんでした。

まだ心にきんちようがつまるなか、やつと一ヶ所目につきました。ほかのチームもきているなかに、まっているあいだ、他のチームのダンスなどをみて、「わあ、すごいな。」とおもいながら、いよいよ私たちのばんがきて、まわりには、他のチームの人や、私たちのおどりを、みてくださる人たちなどで、いっぱい

いっぱいだった。そして、私が、そのまわりの人たちを、みていたとき、ぱつと曲がなりだしました。私は、あわてて曲にあわせながらおどりました。その時私は、心の中、「しゅうちゅう」を心にいきかせながら、3つのおどりをなんとか、ましがえずにおどれて、なんだかほつとしました。

そのあと、何か所か回って、学校に帰りました。そして、きゅうけいがおわう時、ごこのパレードにむかした時より心の中が「どきどき」していました。

太陽がふりそそぐ、あついなながいパレードが始まりました。その中おどっていると、2年生の時のたんにんの先生、いとこ、おばあちゃん、など

きてくれていました。そのしゅんかん私の心は、なによりもうれしくてたまりませんでした。そのご、パレードが終り学校に帰って、おせわになつた人たちにお礼をしてかいたさんしました。いえにかえると中私の心の中は、「どんたくまたでたいな、どんたく大好き」の気もちで、いっぱいでした。

山笠

●長丘小学校6年

フタガミ 二神 彰太 ショウタ

山笠や 勢い水で 汗流す

山笠や 博多の心 動かすぞ

皆ひとつ 山の動きで 心見る

山笠や オイッサーの声で 山動く

もう若手 自分の体 守り抜く

一人前 早く巻きたい 赤手拭

山笠や 胡瓜食べたら けがするぞ

NPO博多の風～最近3年間の動き～

平成20年

- 4月 第20回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:石原進氏(JR九州代表取締役社長)
- 5月 第13回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 6月 第7回 追い山笠コース探訪 開催
第8回 祭童子あつまれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第14回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 11月 第21回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:森山良二氏(福岡レッドワーブラーズ監督)

平成21年

- 4月 第22回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:山本義裕氏(前在福岡米国領事館商務官)
- 5月 第15回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 6月 第8回 追い山笠コース探訪 開催
第9回 祭童子あつまれ楽文コンテスト 実施
- 10月 第16回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 11月 第9回 祭童子集まれ楽文コンテスト表彰式 開催
第23回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:因幡敏幸氏(NPO博多の風 副理事長)
春日大野城那珂川消防本部特命監

平成22年

- 4月 第24回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:大庭宗一氏(NPO博多の風理事長)
- 6月 第9回 追山コース探訪 開催
第10回 祭童子くあつまれ楽文コンテスト 実施

上記以前の沿革はホームページをご参照ください

URL: <http://hakatanokaze.jp/history/history.html>

NPO博多の風の歩み

■設立

平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一

■NPO登記

平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

■啓発事業

- ・博多の風フォーラム開催
- ・広報誌・HP発行
- ・毎日新聞世論フォーラム公聴
- ・作文コンクール(楽文コンテスト)実施

■地域環境向上事業

- ・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)

■活性化事業

- ・書籍出版
- ・博多祇園山笠の振興
- ・山笠コース探訪開催

■協力事業

- ・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027

福岡市博多区下川端町8-16-302

FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakatanokaze.jp

URL <http://hakatanokaze.jp>

題字:新井光守

